

## 伊豆八十八札所巡礼報告書

写真・文 後藤

と き 2019. 10. 09 (水) 晴・風あり・湿度低  
ところ 青野川河口 8 : 26—青野川堤防—56番・正善寺(無住職) 8 : 40—57番・青龍寺 9 : 22—流下(したる)—花狩・成晃園 11 : 15—石廊崎—流下—58番・正眼寺(昼食) 11 : 46~12 : 53—事故 14 : 00—入間トンネル手前 14 : 15  
参加=18名 歩数=25000 距離=17.5km

前回最終地の青野川地先から出発。快晴で風が気持ちよい。青野川堤防を遡り、正善寺着。ここは無住職。しかし、大日如来像は、運慶の作といわれる。これは県重文指定。

・・・仏像のいわれなど

正善寺は現在は曹洞宗だが、もとは真言宗寺院という。

伝大日如来像は正善寺のお堂の正面向って左の間、壇上に安置される。

まげを結び、冠や胸飾りをつけるところは菩薩の姿だが、如来の袈裟をつける。

手は胸前でふわりと合わせる。この手先は後補だが、腕の付き方として、

手は胸前で構えていたことは確実で、金剛界、胎蔵いずれの大日如来像の印相とも異なり、本来の像名は決しがたい。・・・ネットから。



正善寺



大日如来像

仏像は確かに素晴らしい。青野川を下り、青龍寺着。境内・本堂はキレイ。出された緑茶が美味しい。住職と面会。白隠禅師直筆の「宝鏡屈の記」を見せてといたら、「1000—くらいかな(一人)」で、「次回見せる」だった。住職は、率直な方だった。帰り際、「Gさんって、あなた」といわれた。青龍寺から、次の正眼寺まで約7km。南伊豆の海岸線を歩く。台風の影響か波があった。船が何隻か行き交う。磯の香りが心地よい。

海岸線を歩く。潮風が心地よい。

「下流」(したる) 集落を通過。この辺りは、静岡東部の我々でもめったに訪れない。仲間が、では「上流」は、「中流」はと、混ぜっ返す。



青龍寺住職



緑茶が美味しい

路傍の「ブーゲンビリア」が見事。

この先で休憩。目の前の海の小さな岩礁に、我々の間で「有名」な一本松がある。私が巡礼を始めた10数年前から健在。

写真のように本当に小さな岩礁で、どのように水を供給されているのか不思議。

松は盆栽などで多く見られるが、もともと乾燥に強い。



一本松



むしろ大事なのは日照らしい。この場合、遮るものは全くないので、日照は問題ない。  
明日、台風が来れば、大量の雨でしばらく凌げる。次回、2年後まで頑張っ欲しい。

岬を回ると、アロエセンターがある。皆は「アロエソフトクリーム」をなめた。  
向かいは「花狩・成晃園」と、ひもの製造販売「旭洋丸水産」。  
花狩は、極楽鳥花（ストレリチア）が素晴らしい。水産で、干物を購入し焼き魚をいただいた。  
成晃園は大瀬で暮らす〇〇〇〇さんがやっている。高齢だがお元気。  
夏は園に大きなお花畑を作る。聞けば、種代金が10万くらい掛かるという。



夏の成晃園



ババさま



購入した極楽鳥花（ストレリチア）



見事な花園だが、特に通販はしていない。  
自身が楽しんで来た方に分けられればイイという。奇特な方だ。  
いつまでも元気にやっていただきたい。

今はオフシーズンだが、極楽鳥花（ストレリチア）を作っている。  
聞けば、一本50ーと安価。4本購入した。そうしたら一本、  
おまけしてくれた。花だけでは寂しいので、葉もつけてくれた。  
綺麗に梱包し楽に持ち運べるように、取手がついたビニール袋に入れてくれた。

何というサービスの良さ。

室内に咲く、ブーゲンビリヤは、年2回咲くという。ものすごく大きな木で見事だ。干物のお土産を買ったり食べたり、すっかりユックリ英気を養い再び出発。石廊崎を過ぎれば、正眼寺着。

急坂を上り境内に入る。前住職の山本文雄さんが迎えてくれた。奥様は2年前になくなったという。2年前は前回訪ねたころだ。住職は92歳になったという。でも、まだまだお元気だ。

お勤め後、昼食をいただいた。季節柄、落花生・サトイモが回る。日差しは強かったが、空気は乾いてカラッとしている。裏山から流れる風は冷たいくらい。もう、セミの声は聞けない。記念写真を撮って寺を辞した。次の入間（いるま）海蔵寺まで長い。上り下りが多い。海岸線を行けないところは、上り道になっている。中木を通過して上りになる。ここは長く厳しい。皆さんはやや疲れ気味。Sさんが先行したが、ゆっくり上る。隊はバラけた。アロエ加工場を過ぎたあたりで、後ろから緊急連絡。Nさんが事故ったらしい。

駆けつけると、顔面から出血し横になっていた。ただ、意識はしっかりしている。歩行中、ペットボトルを手にして飲もうとしたら、足がもつれ転倒し顔面擦過した。顔面だから出血は多いが、重症ではない。救急袋を出して、強カテーブで手当て。Nさんは翌日、通院し精密検査をしたが、大きな問題はなかった。一安心だった。

#### 付録

過去の私の講座で事故は5件あった。

1件目は、2007年夏の巡礼だったと思うが、蒸し暑い日だった。行程は、萑山から畑毛に差し掛かった。真夏の日射が照りつけていた。あまり暑いのでコンビニで休憩。そのとき年配の某さんが倒れた。コンビニの車侵入禁止のパイプに寄りかかっていたが、めまいを起こした。熱中症の感じだった。意識はしっかりしていたが、大事をとり、救急車で三島の病院に向かった。結果はOKだったが、転倒時、打ち所が悪かったら、大事に至った。休憩時は、しっかり座るべきだった。

2件目は、伊豆ウオークだった。2013年6月だった。やはり蒸し暑い日だった。朝一番で高通山東登山口から出発。15分上ったところで、Yさんが倒れた。軽い痙攣もあり、やや心配だったが横にして冷たい飲み物を与え安静。

しばらくして、元気が回復した。やはり軽い熱中症だっただろう。2～3名でサポートしてバスの人となった。その後は問題なかった。十分な睡眠・しっかり朝食摂る。トイレを済ませる。が、肝心です。





2019. 10. 09 五十八番・正眼寺（石廊崎）



ブーゲンビリア

